

## 令和6年度 放課後等デイサービスきらっと 事業報告書（案）

### ～支援体制～

7月に法人内で人事異動あり、児童指導員が不在となったため、児童指導委員等加配加算が算定できず、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師による支援体制となった。

### ～個別支援計画～

4月に個別支援計画立案のため、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師、指導員による個別支援会議にて個々の利用者の個別支援計画を立てた。6月保護者との面談実施し、説明、署名をいただいた。

10月、個別支援計画のモニタリング実施。計画立案同様、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師、指導員で会議開催し、1名ずつ支援について振り返りを行った。11月より保護者との面談実施し、説明、署名をいただいた。

3月初旬に年度末モニタリング実施し、来年度4月に個別支援計画立案、5月より保護者との面談実施予定。

### ～令和6年度平均利用者数～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	21日	21日	20日	22日	21日	19日
利用者数合計	100人	94人	96人	98人	78人	88人
平均利用者数	4.76人	4.48人	4.80人	4.45人	3.71人	4.63人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	22日	21日	20日	20日	20日	21日
利用者数合計	94人	88人	87人	79人	85人	82人
平均利用者数	4.27人	4.19人	4.35人	3.95人	4.25	3.90人

今年度平均利用者数について、3.71～4.80人で推移し、年間平均利用者数は4.30。体調不良による長期入院によるもの。長期学校休業日は利用を控える方などが数字に反映している。特に保護者の就労を主な目的として利用されている方については、学校休業日の利用時間が足りないことなどを理由に短期入所、レスパイト入院を利用するケースもある。これらのサービスについては保護者のレスパイト機能も当然あり、利用ニーズは高い。

また、重症心身障害児ではない2名を受け入れている影響もあり、平均利用者数は昨年と大きく変わらないが、前述の児童指導員等加配加算が算定できなかったことと合わ

せて収入に大きく影響している。

～職員研修～

職員相互の研鑽のため、下記研修会に参加、聴講した。

令和6年8月1日～31日

令和6年度滋賀県重症心身障害児・者および医療的ケア児・者支援者のための研修会  
オンラインによる聴講

令和6年9月26日

令和6年度小児アレルギー疾患対策地域関係者研修会  
オンラインによる聴講

令和6年12月10日

三雲養護学校 公開授業

令和6年12月19日

滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修会  
オンラインによる聴講

年間を通して、かがやき、るりこう園で行われているミュージックケア（音楽療法）に参加し、加賀谷式音楽療法の方法、実践について学んでいる。

～日常業務について～

○清掃

- ・カーテンを開けて、冷暖房で室温の調整
- ・テーブルや流し台、洗面台を消毒
- ・天井走行リフトのレール、テレビ、棚等の埃取りののち、消毒
- ・床の掃除機、モップ掛け、水拭き、消毒
- ・加湿器の水補充

○活動準備

- ・活動の計画（月・週・日ごと）
- ・3週間に1回図書館へ、絵本や紙芝居を借りる。
- ・制作の作業準備、試作実施
- ・技術向上のための練習（伴奏・読み聞かせ）

- ・当日利用者の記録用紙の準備、必要物品のセッティング

#### ○利用者到着後から

- ・手洗い介助
- ・バイタル測定（体温は全員が対象でその他は必要な方のみ）
- ・荷物の整理
- ・家族からの引継ぎ、学校からの引継ぎの確認
- ・水分補給介助（持参がある方については間食も）
- ・排泄介助（介助のタイミングは個々に依る）
- ・全体活動支援
- ・連絡帳記入
- ・個別活動支援
- ・保護者来所時の対応

#### ○利用者送迎について

医ケアを必要とする児童には看護師が同乗するようしており、必要に応じてポータブル電源を持参、使用している。9月より送迎加算算定のため、かがやきの運転手に兼務してもらうことで対応した。

#### ○配布物の作成

- ・きらっと便り（毎月発行）

お便りについては、日頃の活動の様子や過ごしを中心に写真を交えて作成している。文章構成、イラストなどの装飾等、分担して一つのを完成させている。

- ・利用日のお知らせ

翌月の利用日を示したものを作成、配布している。配布することで日程の確認、互いの失念を防ぐ役目をしている。

#### ○施錠の確認

当事業所は通所施設であり、職員が常駐しているわけではない為、夜間は各所の施錠が必要である。しかし、建物内には施錠を必要とする箇所が多く、最後に退勤する職員がひとりで施錠の確認をすると効率が悪い。そこで、場所ごとに最終的に確認する事業所の割り当てを行い、効率化を図っている。確認後は、所定の表にチェック、記名することで責任の所在を明確にしている。

#### ○業務日誌・家族との情報共有のための連絡帳

業務日誌の内容は、①学校への迎えの時間②利用開始時刻③利用終了時刻④体温⑤

心拍⑥SPO2⑦服薬の実施⑧水分摂取量⑨利用時の様子(⑤～⑦については該当利用者のみ記載)としており、入力と併せて、利用者ごとのケース記録にも同じものを残すようにしている。また、その日の利用ではなくとも保護者から連絡が入った際も、内容を残している。

利用している児童・生徒のなかには自ら他者に働きかけたり、何かを発信することが難しいケースもある。そのような方たちの様子を家族に伝え、あるいは自宅での様子を共有するツールとして、連絡帳を活用している。

昨年度より保護者との連絡、連携をより円滑に行うことを目的として携帯電話を使用している。電話による応答だけでなく、メールでの文字による応答が可能になったことでより正確に連絡連携を行うことができている。

～療育活動～

4月	ねらい	一人ひとりの生活を大切に、安心した時間を過ごせるようにする。
	主な活動内容	イースターエッグ制作(張り子製のたまごにペイント実施) エッグハント(各所に隠したイースターエッグを探す) 端午の節句準備(こいのぼり制作および飾りつけ) 屋外散策(施設敷地内を希望者で)
5月	ねらい	生活のリズムを整えながら、自然に触れる。
	主な活動内容	パネルシアター(やさいができたよ) 制作(さくらんぼ・あじさい) ゆうがお・ミニトマトの植えつけ
6月	ねらい	周りの環境に関心を持ち、楽しく過ごす。
	主な活動内容	ゆうがお・ミニトマトの観察・水やり 制作(かさ) 七夕制作
7月	ねらい	気温の変化に留意し、夏の遊びを楽しむ。
	主な活動内容	七夕飾りつけ 新紙幣についての活動 オリンピック・パラリンピック応援グッズ、メダル制作 ゆうがお・ミニトマトの観察及び収穫
8月	ねらい	規則正しい生活を送り、元気に過ごす。
	主な活動内容	オリンピック・パラリンピックにちなんだ活動(ボッチャ) 制作(Tシャツ) ピワイチすごろく(マス目を夏仕様に変更して実施)
9月	ねらい	夏から秋へと変わっていくなかで、健康に過ごし、楽しさを共

		有する。
	主な 活動内容	制作（とんぼ・ブドウ）
10月	ねらい	活動を通して季節の変化を感じ、季節の行事に関心を持つ。
	主な 活動内容	ハロウィン飾り制作（ゴースト） Trick or Treat サイコロゲーム（出た目のお菓子を獲得） かぼちゃ探しゲーム
11月	ねらい	秋の自然に触れ、季節の変化を体感する。
	主な 活動内容	疑似遊び（お芋ほり さつまいも制作） クリスマス準備（ツリー制作）
12月	ねらい	慌ただしい中であって、ゆったりできる時間を過ごす。
	主な 活動内容	クリスマス制作（リース） 音楽活動（あわてんぼうのサンタクロース） クリスマス会（パネルシアター『わすれんぼうのサンタさん』） お正月制作（へび）
1月	ねらい	季節の行事を通じて伝統的文化を体験する。
	主な 活動内容	お正月遊び（すごろく・書き初め） 節分準備（恵方巻制作）
2月	ねらい	友達や支援者と一緒にもものづくりや感覚遊びを楽しむ。
	主な 活動内容	節分行事（お話を視聴後、福の神ポッチャ） ひな祭り準備（ひな飾り制作）
3月	ねらい	卒業や進級への期待感を持ち、充実した生活を送れるようにする。
	主な 活動内容	合同制作（気球） 作品袋制作（自身の手形などで袋を装飾したのち、これまでの作品を振り返りながら袋詰め） 防災学習（3/27に実施の消防訓練に先立ち、心構えを学習）

～活動中の利用者の様子について～

障害の特性上、新しいものを受け入れ、習慣化するためには時間を要する利用者が多い。その為、同じ活動を繰り返しおこなうことで、その活動に対してのなじみや安心感を得られるよう働きかけることをモットーに活動を展開している。活動については、その日の利用者の構成により開始時刻が前後するが、通常の放課後であれば概ね16時15分頃にはじめの会に始まり、週替わりでの活動を経て絵本・紙芝居の読み聞かせでクールダウンしたのち、帰りの会で迎えを待つ流れとしている。長期休暇時は滞在時間が長く、それに伴い食事、排せつの介助等の生活支援、医療的ケアに時間を要するため、午前で1時間半、午後で1時間

半を活動時間としている。さらに今年度 8 月より 3 名での支援体制となったため、さらに全体での活動時間が短くなった。また、生活支援では順番待ちをする場面が増えた。

制作活動：季節に関連した花や飾り、習字などを制作し、廊下に展示している。集中力の持続が困難なケースが多く、一度に完成させるのではなく、少しずつ短時間の取り組みを、回数を重ねるようにしている。また、正月や節分、桃の節句や端午の節句など、伝統的な季節の行事は月初であることが多くみられるため、それを見越して前月の最終週に準備を始めるとして徐々に雰囲気をつくるようにしていった。完成した作品については、廊下に掲示。華やかさを添えるとともに、観てもらった方からの感想が嬉しく達成感に繋がったと思われる。

合同制作：今年度は入口の虹の壁面に浮かぶ「気球」を題材として実施。たくさんのお花紙を丸めてビニール袋に入れていった。ひとつの同じゴールに向かって取り組むことで一体感や仲間意識の醸成を目的としておこなった。

散歩：同じ場所でずっといると落ち着かなかったり、周りの音が気になったりと気分転換や場面転換が目的で屋内や屋外に散歩に出かけている。その日の利用者の人数、構成にもよるが全員で屋外へ出る機会があれば積極的に屋外で過ごすように心がけている。

音楽体操（ラジオ体操）：『てをたたきましょう』『しあわせならてをたたこう』『あたまかたひざポン』『むすんでひらいて』など全 8 曲を活動の導入として実施。職員が見本となるように動くとそれを見ながら身体を動かせる子もいるが、ほとんどの利用者は聞いているのみ。しかし、それでも伴奏が始まると嬉しそうにしており、楽しんでいる様子がうかがえる。また、レパートリーの中からの選曲も順番に取り組んでもらっており、概ね好きな曲がわかるようになってきた。なかには、お気に入りの曲を引き当てるまで選び直しを希望する方もおられ、その最中のやり取りが和やかな雰囲気づくりに一役買っている。

読み聞かせ：活動の終盤に締めくくりとクールダウンを兼ねて実施。時間のある時には『ペンギンマークの百貨店』で利用者に絵本を選んでもらうようにしている。理解の容易な物語を中心に読み聞かせしているが、幼児向けの同じ音の繰り返しで構成される絵本を好む児も少なくない。

運動遊び（ボーリング）：ペットボトルを再利用したピンを順番に倒してもらうが、扱いが容易となるよう軽いゴムボールを用いている。そのため、ボールが命中しても倒れないことがしばしばあるが、その状況をも楽しめるように盛り上げている。

すごろく：ビニール製の大きなさいころをつかんで投げたり、足で蹴ったり、膝の上に乗せたものを落としたりとさいころが動く様を見て楽しまれている。滋賀県にまつわるものをマス目にした「ビワイチすごろく」を昨年度作成。すごろくの前に動画で滋賀の名所などを見た後、すごろくを行っている。

ボッチャ：本来使用するボールやルールでは行えなかったが、プラスチック製の鈴の入ったボールをランプの上に乗せ、同じく鈴をつるしたゲートをめがけて転がした。うまくゲートにボールを乗せる。また使わずに投げる。ボールを蹴るなどされ、それぞれの楽しみ方をされていた。

栽培活動：地域交流の一環として、昨年度から水口名物のかんぴょうづくりに挑戦した。地域で水口かんぴょうの普及に携わっておられる生産者から原材料となるゆうがおの苗を譲り受け育てた。昨年はプランターで育てても実はできないと生産者から聞き、今年度はかがやき庭の一角に苗を植え付けた。2度交配の機会があったが、実は大きく育たず結果としては失敗に終わった。写真を撮影し、生育状況を掲示して利用者にも関心を持ってもらえるようにした。今年も保険として栽培していたミニトマトは順調に育ち、収穫に至った。利用者にも植え付けから始まり、水やり、収穫と継続的に介入してもらい、収穫数はその都度、利用者にシールを貼ってもらうことで記録した。